

八学大看護学科サテライトキャンパス

むつに来年4月開設

1学年10人、総合病院近く

八戸学院大とむつ市は5日、同大看護学科のサテライトキャンパスを来年4月、市内のむつ総合病院近くに開設すると発表した。募集は1学年10人を予定。同大を運営する光星学院の法官新一理事長は「むつ下北の健康増進の拠点になれば」、山本知也市長は「（学生の）進路の選択肢となり、地域医療体制の充実に寄与するよう期待する」と、それぞれ述べた。（工藤文一）



臨時記者会見でむつ市に八戸学院大看護学科サテライトキャンパスの開設を発表する法官新一八学大理事長（右）と山本知也市長＝5日、むつ市



八学大看護科のサテライトキャンパスの建設予定地
＝5日、同市

両者が臨時記者会見を開き、明らかにした。市の高

等教育機関の誘致は青森大、青森明の星短大に続き3番目。看護系の開設は初となる。4年制で、学生は履修後に国家試験に合格すれば正看護師の資格を得る。

キャンパスは旧幼稚園跡地の駐車場を予定。民間業者が建物を建設し、同大が借り上げる形を見込む。市は家賃補助などの支援をする方針。また、学生に対し学費を全額貸与する新たな奨学金の創設なども検討している。

市によると、現在は年間20、30人が市外の看護学部に進学しているという。山本市長は「地元で学べる環境を整え、まちづくりに若者の意見を取り入れられる」と意義を強調した。

昨年10月ごろに市側が打診。大学側は先月22日の理事会で開設を決めた。近く学内にプロジェクトチームを編成、カリキュラムなどを検討する。2024年度の早い時期に文部科学省へ申請する考え。また、5月には学生の募集を始める意向だ。法官理事長は「むつ下北地区は八学大の募集エリア」と思っているし、サテ

ライトの開設で大学の活躍の場、認知度も広がる」とメリットを挙げた。両者は19日に包括連携協定を締結、詳細を発表することになっている。